

令和元年度通常総会報告

長崎県技術士会 会長 山口 和登

6月8日諫早観光ホテル道具屋にて、令和元年度通常総会を61名の会員出席（欠席者の委任状は43名）のもと開催し無事終了しました。その後、日本技術士会長崎県支部年次大会、そして佐賀大学農学部の阿南光政准教授（農学博士・技術士：農業部門）、九州大学附属火山観測研究センターの松島健准教授（理学博士）を講師に招いてCPD研修会を開催しました。引き続き交流会を開催し盛会に終わることができました。交流会は今回44名の参加者となりました。

ご協力ありがとうございました。

総会の議事内容については総会参加会員各位には周知済みでありますので、ここでは不参加会員を考慮して総会の概略状況をご報告申し上げます。総会は川村副会長の総会成立（会員総数の5分の1以上の参加で成立）宣言の後、第1号議案から第6号議案の審議及び報告事項の説明が行われました。



写真1：総会

1. 総会議案

第1号議案：平成30年度事業報告

原案の通り承認

30年度の主な実績は、①役員会の年6回の定例開催 ②6月の総会時及び9月と11月の研修会（年3回）、5月、10月の現場見学会（年2回）の日本技術士会長崎県支部との共催による実施、長崎地盤研究会の勉強会・ジオラボの後援団体として年4回の研修会、年1回の現場見学会（技術士会共催）への参加、産業基盤維持管理技術研究会の講演会（年3回）見学会（年1回）への参加 ③機関紙の年4回発刊配信、会員名簿30年度版の作成（350部）会員及び関係機関に配布 ④会員の増強、令和元年6月現在の会員数175名（9名の新入会員）で会員都合による退会、逝去のための退会があり、新入会員が9名と多いにもかかわらず、昨年から6名増の会員数となりました。⑤その他、公益社団法人長崎県建設技術研究センター主催の「ながさき建設技術フェア2018」の後援、NPO技術フォーラム懇話会後援及び長崎大学における技術士会による第4回講義の実施：受講大学生39名 などです。具体的には長崎県技術士会のホームページの活動状況報告を参照してください。

第2号議案：平成30年度収支決算、会計監査報告

原案通り承認

具体的な金額等は紙面の都合上ここでは省略しますが、議案書において周知した通りです。詳細は議案書をご参照ください。尚、議案書をお持ちでない方はお知らせ願えれば議案書を配信します。監事による会計監査は3/27（水）に実施され、その結果が報告されました。

第3号議案：令和元年度事業計画（案）

原案通り承認

元年度の主な計画は、①総会及び役員会の定例開催 ②長崎県技術士会・日本技術士会長崎県支部共催の研修会の年3回開催、現場見学会の年2回開催 ③ジオラボ（長崎県技術士会後援）への年4回の勉強会参加、年1回の現場見学会参加、産業基盤維持管理技術研究会への年3回講演会、年1回見学会参加 ④機関紙の年4回の継続発刊配信、会員名簿の昨年同様の350部作成・配布 ⑤長崎大学との連携強化、学生を対象とした第5回目の講義への講師派遣、他技術機関との連携 ⑥県技術士会の活性化：ホームページの更なる改編・充実を実行し、積極的な情報開示・会員募集、増員を図る等です。

第4号議案：令和元年度収支予算（案）

原案通り承認

第3号議案を遂行するための予算案を作成、提案しました。具体的な金額はここでは紙面の都合上ここでは省略しますが、総会時に提示した通りです。詳細は議案書をご参照ください。尚、議案書をお持ちでない方はお知らせ願えば議案書を配信します。

第5号議案：長崎県技術士会役員（案）

原案通り承認

今年度は役員改選の年のため、昨年度において会長選挙のお知らせ（候補者募集）を広報しましたが、期日までに候補者がなく、役員会において会長の続投が提案されました。この為、原案を作成し、総会で承認を受けるための案を提示し、原案通りの役員案が承認されました。尚、毎熊副会長が役員就任を固辞され、新たに折田氏と横山氏が役員に就任されたため、昨年度より1名の増員で承認されました。令和元年度、2年度の役員構成は長崎県技術士会の令和元年度版会員名簿及びホー

ムページに掲載していますのでご参照ください。来年度は役員非改選の年です。

第6号議案：長崎県技術士会会則・細則一部改定（案）

原案通りに承認

長崎県技術士会の会則及び細則は平成24年6月2日改定以来、しばらく改定されていませんでしたが、現状に即した会則・細則の必要性に応じた改定案を提案しました。改定後の会則・細則は長崎県技術士会の令和元年度版会員名簿及びホームページに掲載していますのでご参照ください。

報告事項、その他

特に報告する事項等はありませんでした。

2. 日本技術士会長崎県支部年次大会

長崎県支部の年次大会は毎熊支部長の挨拶の後、以下の報告がありました。

(1) 平成30年度事業実績

3回のCPD研修会、2回のCPD見学会実施

(2) 平成30年度収支報告及び監査報告

収入738,311円、支出590,095円、次年度繰越148,216円

監事による監査報告(3/27実施)

(3) 活動方針

会員状況報告、支部活動方針、支部役員構成、事務局

*役員構成は長崎県技術士会の会員名簿等を参照ください。

(4) 令和元年度事業計画

3回のCPD研修会、2回のCPD見学会の計画

(5) 平成30年度収支予算

収入840,207円、支出632,000円、次年度繰越208,217円

(6) その他報告

最後に、今期で退任されます毎熊支部長よりご挨拶を、また次期支部長就任予定の山口昭光さんから挨拶を頂きました。

3. CPD研修会

2名の講師による下記の演題でCPD研修会を開催しました。

演題①：「農業農村の持つ洪水緩和機能と持続的発現に向けた対策技術について」

講師：佐賀大学農学部准教授 阿南 光政先生
(農学博士・農業部門技術士)

演題②：「地震発生メカニズムと被害」

講師：九州大学附属地震火山観測研究センター
准教授 松島 健先生 (理学博士)



写真2：CPD研修会

各講師による講演終了後、活発な質疑応答が行われ、充実した研修会となりました。

4. 交流会

研修会終了後、ホテル内の別室で交流会を開催しました。

合格者、新入会員9名、講師の阿南先生を含め44名が参加しての盛大な交流会となりました。交流会においては長崎県技術士会の名誉会員で役員であられる松永光司氏の音頭のもと乾杯し、元年度の役員、出席合格者・新入会員の自己紹介など会員相互の情報交換を行いました。最後は長崎県技術士会の顧問であられる岡林長崎大学名誉教授の発声もと万歳三唱を行い、楽しい交流会となり

ました。



写真3：交流会

以上総会報告を行いました。

最後に長い間、毎熊元様には長崎県技術士会の役員及び長崎県支部支部長を努めていただき、大変感謝申し上げます。今後も技術士会の会員としてご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

支部長（副会長）退任のご挨拶

長崎県支部 前支部長 毎熊 元

7月6日を持ちまして、日本技術士会長崎県支部長、長崎県技術士会副会長を退任致しました。



写真4：毎熊元氏

平成23年度から30年度まで長崎県技術士会の副会長、併せて25年度には日本技術士会九州支部長崎地区代表幹事、26年度から長崎地区より移行した県支部の支部長として3期5年、役員の皆様の推薦を頂き職務を担当致しました。

運営に直接協力頂きました役員の皆様はもとより、支援頂きました会員の皆様は心より御礼申し上げます。

日本技術士会は平成23年4月に公益社団法人へ移行しました。それに伴い、九州支部は九州本部となり、各県支部設立の方向性が出されました。

長崎地区においても支部設立に対するメリット、デメリット等で不安の声が上がり、当時の大橋代表幹事が調整にご苦労されたことが思い出されます。25年度に代表幹事の役を受けて、その任を引き継ぎました。

支部設立については、最終的に会員の皆様へのアンケート調査を実施することになり、60%以上の賛同を得ることができました。役員の皆様、会員の皆様のご協力・ご同意を得、26年6月14日設立年次大会を開催する運びとなり、無事に支部を発足することができました。支部長就任以来、「人との和、上部団体との調整」をモットーに取り組みました。

現在支部活動が順調に進んでおりますのも、長崎県技術士会、日本技術士会会員の皆様のご理解ご協力の賜物と感謝しております。

事業活動につきましても、支部発足前は年1～2回のCPD活動でしたが、支部発足後は、6月8日の年次大会で報告しましたとおり予算増額となり、30年度は5回のCPD研修が実施できました。支部設立の効果があつたと考えます。

日本技術士会の今後の方向性として、{技術士制度改革について(提言)「最終報告」}が5月8日付で公表されました。(日本技術士会ホームページ参照)

その中で、技術士を取り巻く環境として、「質の高い十分な数の技術者を育成していくことは重要な課題である。社会ニーズに対応した高い専門性と倫理観を有する技術者として技術士資格を有した優れた人材を確保することは、今後のグローバ

ル社会、日本の産業・経済社会の発展にとって必須である。」とあります。

今後の検討項目として、

①更新制度の導入②技術士補の在り方③国際通用性の確保④資格の活用があげられています。

特に“更新制度の導入”について、「現行制度では技術士の活動状況の把握や資質向上の責務の確認が不十分である。活動状況の把握には定期的に登録状況を確認するシステムの導入、日々の資質向上の責務遂行の確認には講習会受講と継続研鑽を義務付ける方向で検討を進めた。」とあります。

更新制度の案として、

①更新の対象者は全員一律とする。②更新は5年毎とする。③更新の条件としては、講習会受講とCPD100時間/5年を必須とする。

となっています。

従いまして、今後CPDの取得が必須となると考えられます。今後益々長崎県技術士会、長崎県支部の活動の場が広がることを願ひまして、また、ご親交頂きました会員の皆様のご健勝を祈念致しまして退任のご挨拶と致します。

(以上)

支部長(2019～2020年)に選任にされて

公益社団法人日本技術士会九州本部
長崎県支部長 山口 昭光

去る4月の地方組織幹事候補選出選挙においてご信任いただき幹事会で長崎県支部長に推薦され、7月6日九州本部役員会の承認を得て選任されました山口です。よろしくお願ひいたします。

長崎県支部(以下「県支部」という。)は平成2

6年1月9日、日本技術士会理事会で設置の承認を得て6月14日設立年次大会を開催し5年が経過しました。県支部、長崎県技術士会の2つの組織があり、どのように棲み分けを行うか、どのように組織を活性化させていくかの課題がありました。(各県に2つ以上の組織があります。)

日本技術士会では研修会を開催するとそれに相応する補助金が交付されます。県支部と

しては、CPD単位の取得と講演会・見学会開催補助費(会員100人未満の場合24万円を上限)を収入とすることとし活動して参りました。現在では、研修会3回・見学会2回を開催し参加者の総数は200名を越えるようになり、補助費の24万円も得ております。

県支部正会員は6月末で98名です。年度途中の入会は期待できませんので新合格者への入会勧誘が必要となります。6月8日、年次大会に併せて研修会・交流会(合格祝賀会)を開催したところ、新合格者8名の方の参加があり、そのうち5名の入会がありました。

日本技術士会では技術士制度改革が進められ、5月8日「技術士制度改革について」の最終報告がありました。また、文部科学省においても第10期技術士分科会 制度検討特別委員会が設けられ、各作業部会で1年をかけて審議されることとなっています。特に、「継続研さん・更新検討作業部会」では技術士資格の継続研さん、更新制の導入について検討することとなっております。

年次大会において、活動方針として

- 1) 研修会等の開催、
- 2) 支部運営の充実、
- 3) 会員の増加

を掲げております。微力ではありますが、皆様のご期待に応えられるよう活動して参りたいと思っております。

皆様のなお一層のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

(以上)

※ 機関紙発行担当からのお知らせ

(1) 新入会員のお知らせ(4~5月承認)

(区分)	(氏名)	(部門)	(所属)
A会員	中村久信	機械	三菱電機エンジニアリング(株)
A会員	竹添光郎	電気電子	(株)イーエムトラスト
A会員	永井宏樹	応用理学	(株)昭和ボーリング
A会員	土橋晋作	応用理学	三菱重工(株)
A会員	中山雄二	建設	(公財)長崎県建設技術研究センター
A会員	原 美輝	上下水道	(株)エコ・プラン

(2) 連絡

令和元年度の会員名簿は、7月中旬に各会員に発送予定です。会費未納者には振込用紙を同封しておりますので、滞りなく会費を振込み頂ければ幸いです。どうぞ宜しくお願い致します。

長崎県技術士会 情報配信局

配信担当者: 古賀脩一郎(株式会社長崎地研)

HP: <http://apren.jp/>

配信メールアドレス: nagasaki.apren@gmail.com

機関紙発行担当の連絡先

長崎県技術士会 理事 園田直志

sonoda_naoshi@icloud.com